

梅窓院通信

No.26 2006/03/01 春彼岸号

絵手紙で届いた春の花三本

四季の変化の中でも冬から春はちょっと特別。木々や花々に季節を感じられるのってしあわせですね。

青山

AOYAMA



住職挨拶

梅窓院第二十五世
中島 真成



今年も春のお彼岸を迎える頃となりました。みなさまにはお変わりないことと存じます。

梅窓院も諸事一段落し、落ち着いた毎日が続き、ゆっくりした時間の中で自分の来し方行く末に思いをはせています。先祖の眠るお墓の前で手を合わせる、冬を越えて迎えた春のお彼岸、私も歴代上人のお墓参りで色々報告するつもりです。

さて、昨年から三人の講師にお願いしている仏教講座ですが、おかげさまで毎回三十名前後の方に参加いただいています。浄土宗を開かれた法然上人の話、仏教全般の話、そして中国のお寺の話など間口を広くしました。すべて一回完結ですので、ものは試し、そんな軽い気持ちで結構ですので、一度お越し下さい。

この五月には仙台への団体参拝を予定しています。仙台から一本道をバスで四十分、行き止まりにある名刹、定義如来を参拝します。漁師の信仰を集めるお寺で、全国を見渡してもこれだけ信者の多いお寺はあまりない、という浄土宗の寺院です。三年前に新伽藍が建ったばかりで、それは見事な八角堂と聞いています。

私も昔の伽藍しか知りませんので楽しみにしています。きっと思い出深い団参になると思いますので、みなさんの参加をお待ちしております。

第三回 (四回連載)

病

生きとし生ける
者は幸せであれ
病を責めず

長野市十念寺 副住職

袖山 榮輝 上人

この春、「子ぎつねへレン」という映画が公開される。原作は北海道の獣医、竹田津実さん著「子ぎつねへレンがのこしたもの」。小学校高学年向けのノンフィクションで、6〜7年前だったろうか、夏休みの読書感想文の宿題用にと、子供に買いつけた記憶がある。

話は、迷子の子ぎつねが、竹田津実獣医のもとへと届けられるところから始まる。

その子ぎつね、目が見えず、耳も聞こえず、鳴くこともできない。そればかりか嗅覚も、味覚もない。食べる、飲むという生き物の本能すら機能しないのである。おそらく脳に何らかの異常があるのだという。

そんな子ぎつねへレンが獣医夫妻の献身的な介護を受ける。そして不安と恐怖の固まりだったへレンが、「うれしい」という安らぎの感情を表現できるまでに成長する様子が綴られる。しかし脳の病は容赦なく進行

し、出会いから2ヶ月、へレンは苦しみがから死んでいった。

なにゆえ、この世に生を受けるのか。本当の幸せとは何なのか。へレンの短い一生は、私たちにそんな難題を突きつける。

ところで最近、「勝ち組」「負け組」という言葉を耳にする。競争社会を勝ち抜き経済的成功を納めた者たちと、脱落していった者たちという意味だろうか。

もちろん、成功するには人知れない努力もあるだろう。しかし「勝ち組・負け組」と言う場合の勝ち負けには、強者の理屈には是非を問わずに黙認し、弱者の理屈については弱音や愚痴として自嘲してしまおうという雰囲気を感じられてならない。

そもそも勝負は時の運。だから奮励努力の甲斐なく失敗することもある。「負け＝無価値」なのではない。

にもかかわらず運不運で人間の優劣まで語ろうというのな

ら、それはあまりに乱暴な議論だろう。

しかも、この「勝ち組」「負け組」に付属して耳にするのが「自己責任」。

私見ではあるが、このふたつが結びつく時、私たちの社会は優しさや慈しみを失い、不幸に陥っていく。

「成功も失敗も自己責任。だから負け組はそれなりの境遇に甘んじてしかるべきだし、勝ち組が負け組に手を差し伸べる必要はない」といった考えが罷り通りかねないからである。

勝負は時の運。運・不運を自己責任に転嫁するのは、弱い者いじめの構図に他ならない。

子ぎつねへレンの病は確かに不運なことである。しかし、へレンに、いったい何の自己責任があるろう。一人で生きる術のない者には、もはや手を差し伸べる価値はないのだろうか。安らぎを求めてはいけないのだろうか。

お釈迦さまは諭される。「生きとし生けるものは安らいだ幸せを望んでいる」(『ダンマパダ』三三偈)。

「生きとし生けるすべての者はみな幸せであれ」(『ダンマパダ』第一七偈)と。

誰でも病になる。病人に自己責任を問うたり、みずからの病を責めるのはやめにしよう。仏道から遠ざかる。

(浄土宗総合研究所研究員)

受付開始 午後12時30分～

別時念仏／法話／茶話会

【講師】宮城教区来迎寺 奥山清康上人

第三十七回

念仏と法話の会 三月六日(月)



僧侶が先導し、行道をして本堂に入ります。皆さん、熱心に参加されています。



法話後の茶話会は、僧侶と参加の皆さんが懇親を深める、交流の場となっています。



まもなく

春のお彼岸を迎えます。

ご家族そろって

ご先祖様をお参りしましょう。

お檀家様へお願い

三月十八日～二十四日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせて頂きます。ご協力お願いします。

春彼岸法要

三月二十一日(火)

彼岸寄席

午後一時～ 一階 観音堂

春彼岸会法要

午後二時～ 二階 本堂

伝えたい 手作りのぬくもり 昔なつかしのおはぎ



お彼岸といえば、おはぎ。ちょっと前までは、ご家庭で手作りする事も多かったのではないのでしょうか。

今では季節を問わず買う事が出来るようになりましたが、このお彼岸は徐々に手作りでおはぎを作ってみませんか？思ったより簡単にできますよ。

○お餅

もち米 3カップ/米1カップ

- お米はといで普通に炊く。炊き上がったらすりこぎで半つきにします。

○あずき餡

小豆 250g

砂糖 350g

塩 少々

- 一度小豆を水から沸騰させ、新しい水で再度沸騰させ、さし水して柔らかくなるまで茹で、十五分蒸らす。
- 蒸らした小豆に砂糖を半量づつ入れ弱火で気長に煮て水分を飛ばす。練り味噌状態になったら塩を加える。
- できた餡を丸めたもち米にたっぷりつけて出来上がり。

春彼岸に寄せて

皆様は日頃、身近な亡き人に心を込めて手を合わせ「南無阿弥陀仏」とお称えされていると思います。

しかし日本では昔から、お彼岸には家族揃ってお寺まで出向き、墓参する習慣があります。一体何故でしょうか。

その昔、お釈迦様はお母様になった直後、七歩歩かれ「天上天下唯我独尊」と天地を指し示しながら叫ばれました。意味は「植物や動物や人間、この世のあらゆる生命は、なんと存在価値のある尊いものですよ」というものです。

正に皆様一人ひとりに向け

られた命の喜びの言葉であり、ひいてはその命を大切に致しましょうね、という教えの言葉であります。ご両親無くして、皆様はこの世に生を受ける事はなく、さらにご両親の親御さんがなくては皆様の存在は有り得えなかつたのです。

「箸取らば 親と先祖の恩 思へ おのが力で食うと思ふな」です。偶然や必然が幾たびも重なって、ご自身の誕生へと繋がっていったのです。本当に、なんと命とは尊いのでしょうか。

どうぞ来る春彼岸にはご家族揃って墓参され、大切な命を与えてくださったご先祖様に、感謝の気持ちをもってお手を合わせて下さい。(法務)

塔婆お申込み方法

同封のはがきを使い**3月10日(金)**必着でお申込み下さい。塔婆回送料は**1本7千円**とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、**当院受付**までお持ち下さい。(銀行でのお振込みは出来ません。)



ぶらり門前膝栗毛 **その6**

築地本願寺

浄土真宗本願寺派 本願寺築地別院

東京メトロ日比谷線 築地駅 / 都営大江戸線 築地市場駅



全国の「食」が集まる築地場外市場はその昔、築地本願寺の境内だったそうなの。今回はインド様式の外観が印象的な浄土真宗の本願寺派別院を訪れました。もちろん門前の市場にもぶらり……。



仏教研究所だより

仏教講座レポート

「仏教講座」を聴いて

昨年、十二月二十二日に第二回目の勝崎裕彦先生（大正大学教授 東京女子大学講師 東京教区香蓮寺住職）の講座が開催され「仏・菩薩——その教えと信仰」と題し、今回は「大乘仏教——大いなる教え」をテーマに講義していただきました。

講義は手元に配られる資料を使いながら、黒板を併用し、分かり易く説明し、進められました。

今回は、大乘仏教について、大乘の宣言（摩訶衍義）、大乘菩薩の教え（菩薩義、摩訶薩義）、大乘仏教の実践行（六波羅蜜、四摂事）の大きく三つの項目に分けて説明されました。

皆様、熱心に聴き入り、また、質問している姿を見受けられました。始終、和やかな雰囲気の中、講義が終了いたしました。

平成十七年度の仏教講座は三月十三日の新井俊定先生（大正大学出版会 埼玉教区天然寺住職）で締めくくりとなります。

築地本願寺とは……

正式には「浄土真宗本願寺派本願寺築地別院」といい、その発祥は1617(元和3)年、京都西本願寺の別院として、第十二代宗主准如上人によって建立されました。現在の本堂は、1934(昭和9)年、東京(帝国)大学工学部教授伊東忠太博士の設計により再建されたものです。建物はインド様式の石造りですが、本堂内は桃山様式を取り入れた荘厳となっており、パイプオルガンも設備されています。浄土真宗本願寺派の関東圏における中心的拠点として、毎月仏教文化講座を開くなど、精力的に布教活動を進めています。



天井が高く明るい本堂。寺院には珍しくパイプオルガンがある。開放的な雰囲気でご参拝者が途切れることはありません。

水揚げされたばかりの新鮮な魚が威勢良く売られています。



階段スロープの彫刻。細部にまでこだわった造りです。



本願寺築地別院 輪番(りんばん)と
共に記念撮影。向かって左から
さん、さん、輪番、さん。



築地市場内にある水神さま。市場で働く人々にとって大切な守り神です。



活気あふれる築地市場。場内は大勢の人とトラックが行き交います。

ぶらり俳壇

冬晴れや 講が築きし本願寺
コート着て信者参拝引きも切らず

※今回の旅は灯台下暗しの感がありました。(再建当時)本願寺が幕府に命ぜられ、海辺近くならという事で決まったのが今の場所ということや、場外市場が寺領で門前町だったことなど、佃の漁師や信者が、信念を持って参拝に訪れる力を学ばせて頂きました。

勝崎先生の仏教講座の様様。



平成十八年度も引き続き新井先生、勝崎先生、阿川先生に講義をお願いしておりますので、お気軽にご参加下さい。

「ぶらり門前藤栗毛」

編集員募集中!

私たちと一緒に本願寺を訪ねてみませんか?

お散歩好き、お寺めぐり好き、食べ歩き好きの皆さん、一緒にレポートしてみませんか? 身近な所に新たな発見が待っているかもしれません。俳句詠んでよし、感想書いてよし、楽しんでよし。皆さんのご応募お待ちしております。

お問い合わせ

梅窓院 青山文化村

☎03-33404-8447

◆前号に引き続き、よろしくお願い致します。

前は「それまでの菩提寺と仲違いしちゃってね」という生々しい話で終わりましたのでその経緯からお願します。

菩提寺は名古屋の千種区というところのお寺で、平成元年、38歳の時に妻を亡くして葬儀を高輪の高野山別院で葬儀をしたんだけど、会葬者が3千人を超えたんだ。当時は千葉の支店長だったんだけど、一介のサラリーマンが喪主の葬儀としては桁違いの会葬者が来てくれた。菩提寺の住職も驚いていたし、お布施もそれなりにさせてもらった。

平成10年には今度は父を亡くしたんだが、父は「世の中に何も残せなかった。だからせめて献体させてもらいたい」といって、大学病院に献体することにした。

◆お父様が献体を自ら望んだのですか。

父は昔交通事故を起こしてね、それを一生引きずらざるを得なかった。だから献体がせめてもの恩返しだったのかもしれない。だから妻の時とは違って密葬にすることにした。でも、変な話だが、菩提寺の住職が密葬を許さないんだ(笑)。

◆大きな葬儀をして欲しかったということですか。

そう、妻の葬儀で3千人、それから10年経ってるから、僕の肩書きも上がってる。数千人の葬儀になればお布施もあがる、って寸法だな、きっと(笑)。

◆で、どうされたんですか。

もちろん密葬にしたよ。親父の意志だからね。住職とはそれで話が合わずに離檀した。まあ、親父も変わってて自分で戒名まで付けてたこともあったんだけどね。

◆それでお寺を変えられたのですか。

僕のはっきりしてるから、お寺のために葬儀をするんじゃない。亡くなった人や家族や知人、友人のために葬儀はするものだって。そういうことは相手に関係なく譲らない。それにその頃は梅窓院とも縁が生まれてたから、思い切れた。

◆そして梅窓院の檀家になられた。

本堂再建という建築の縁もあったけど、青山という一等地にお墓を持てたのはありがたいことだね。

◆檀家になられてからは、お寺の行事には毎回欠かさず出られてますよね。

実はお経を聞くのが好きでね。お経を聞いていると無になれる。宗教は心の支えだと思っけれど、僕は仕事一筋でやってきた。会社でも出世頭。でも、50歳ぐらいの時かな、人生50年って昔は言ったけど、人生の折り返し地点に立ったと思っ、それから家族のため、人のため、そしてそれは自分のため、子供のためということになるんだけどね。

◆素朴な質問なんですが、ビジネスの世界にいると宗教といったものに目が向きにくいのではないですか。

私は常々部下に「仕事は生活の糧を得るもので、いい意味で演技だから、それぞれが仕事の場でベストアクターを目指すように」と言っています。そういう意味では仕事と信心や宗教とは一線を画している。

ただ、人間の中心にあるものはやっぱり心で、その心をどうやって支えるかといえば、宗教がその役割を果たすのは言うまでも無い。

◆さんは昨年、平成17年4月から檀家総代になられていますが、総代としての抱負を聞かせていただけますか。

新参者がこんなことを言うと、昔からの檀家さんに怒られるかもしれませんが、旧檀家と新檀家のギャップを埋めたいと思います。昔からの檀家さんには以前からの梅窓院さんとの関係がある。それに比べ新檀家は本堂再建にともなう墓地改装から梅窓院と縁を結んでいる。

昔からの梅窓院を知っているかいないかで大きな違いが出るのは仕方がないことだし、まして再建の仕方に色々な意見もあるでしょう。ですが、そういうことをわかった上で同じ檀家として梅窓院を盛り立てていければ、というのが今の気持ちですね。

◆そういうお気持ちを形にしていただければ、お寺にとってもありがたいことですので、よろしくお願い致します。本日はお時間をいただき、ありがとうございました。

プロフィール

昭和25年12月24日、名古屋生まれ。中央大学商学部を卒業し長谷工コーポレーションに入社。44歳の若さで取締役となり現在常務取締役。梅窓院とは先代住職時代に縁を結び、新生梅窓院本堂再建では陣頭指揮をとる。平成17年4月より檀家総代に就任。





本店住所／〒141-0021
 東京都品川区上大崎3-3-3 目黒駅前通り
 TEL／03-3445-1818
 FAX／03-3445-6963
 ※花束のご予約承ります。

梅窓院受付の小さな花屋さん

お彼岸・お施餓鬼のお参りに
 お好みの花束をお作りします

「梅窓院の近くにお花屋さんはないですか？」
 そんなお檀家さまの声にお
 答えして、梅窓院受付にお参
 り用のお花を置くスペースも
 設けました。今ではいつお参
 りに来て、お花をお求め頂
 けるようになりました。



菊を中心とした仏花や椿は
 もちろん、最近では洋花のア
 レンジメントも充実。季節の
 お花を受付まで届けてくれる
 のが花君さんなのです。

花君は本店を目黒駅前につ
 くる、江戸時代創業の老舗の
 お花屋さん。「どんなに苦し
 い時代でも、人がお花を飾る
 という心は変わらないですね」
 と社長は語ります。
 もうすぐお彼岸。春の花束
 を持つて、お墓参りにだけ
 ませんか。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

◎文字をどる曾孫誕生の賀状かな
 (評)「文字をどる」に賀状を送った人、それを受けとった人の喜び溢
 れる感じが実によく出ています。読む方もうれしくなるような句で
 す。

◎佳作

- 林立の一帆うごく冬夕焼
- 初詣友の一家に会ひにけり
- 参道の苔に落ちつく寒椿
- いづくかにはたきの音を日向ぼこ
- 道ゆくや風に枯木のゆらぐこゑ
- すつきりと富士山見ゆる冬の空
- 豪雪になすすべありやこの国は

◎選者詠

○ 夜を笛のこゑわたるかに雪しまき

大崎 紀夫

〈フンポイントアドバイス〉
 俳句は季節を詠む詩、だと私は思っています。人の世のあれこれを含
 んだ四季の移ろいを詠む詩。そのために季語の使い方が大切で「季
 感」というものを重要視しています。季語があっても季感の少ない句
 はよくないのでは、というのが私の考えです。

投句募集

今回は「春の季語」で自由にお詠み下さい。3月20日
 を締切、6月発送の『施餓鬼号』にて発表致します。特選
 の方へは粗品を郵送しています。住所、氏名をお書き添え
 の上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。
 〒107-0062 港区南青山2-26-38
 梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
 ウエップ編集室
 電話03-5368-1870

第二十二回

食は命なり

食養研究家
 武鈴子

生命力のごちそう
 野草粥

春になるといろいろな山野草が地面から顔を出してきます。蒨の薹、タラの芽、ぜんまい、うどなどおなじみのものから、どこにでもはびこっているドクダミ、オオバコ、ヨモギ、ハコベなど。これらの野草ほど力強いものはないのではないのでしょうか。多少の風雨や日照り続きぐらいではビクともしない、その旺盛な生命力からもわかるように、野草の多くは各種の薬効があり、昔から民間療法としても重宝されてきました。

しゃぜんそう

オオバコは別名「車前草」とよばれ、車の轍のあるところには必ずオオバコの姿が見受けられます。葉が大きいことから大葉子といひます。葉には咳を鎮め、痰を除く作用があります。また、漢方ではオオバコの種は「車前子」といい、そのほか特に利尿作用に優れていて、むくみ、排尿障害、膀胱炎、血尿、下痢、関節痛、結膜炎などに効果があるといわれています。空気がきれいなところに生えている、オオバコの全草を煎じてお茶代わりに飲んだり、お粥に炊き込んで召し上がってみてはいかがでしょうか。

「オオバコ粥」は、全草を根っこごと掘り抜いて土や汚れをきれいに洗い落とします。一株分を、米1/2カップ、水5カップに入れてお粥を炊きます(約40分位)。お粥が炊けたらオオバコを取り除き、塩少々を加えていただきます。

境内散策



境

内から墓地に入っただけの一面に、小さな庭園が出来ました。美しく配置された木々の間には「蹲(つくばい)」も復元され、風情ある憩いの場所がまた一つ増えました。



訪れるたびに新しい発見があります

春彼岸会法要

三月二十一日(火)
寄席 午後一時〜 観音堂
法要 午後二時〜 本堂

※詳細は三面をご覧ください。

〔落語〕

入船亭扇好師匠ほか

入船亭扇好師匠プロフィール

昭和三十八年長野県生まれ。昭和六十年入船亭扇橋に入門。平成十年真打昇進。古典落語を中心に活動。永六輔氏主催の「永住亭」レギュラーメンバーでもある。趣味はスキー、日本舞踊、小唄から古道具集めまで幅広く。



増上寺御忌大会

四月二日(日)〜七日(金)

増上寺で御忌法要が行われるこの期間、境内の桜も満開となり、出店も並んで、大勢の人で賑わいます。三、四日は詠唱大会も開かれ、今年も梅窓院詠唱会の皆さまが参加致します。春の日の散策に、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。



昨年の詠唱大会の様様。

行事予定

はなまつり

四月三日(月)〜八日(土)

寺院棟二階 本堂
お釈迦様の誕生をお祝いする「はなまつり」。寺院棟二階の本堂エントランスに甘茶をご用意しております。皆様どうぞご参拝下さい。

西方寺団体参拝旅行

―仙台 定義如来の旅―

五月十三日(土)〜十四日(日)

本年度の梅窓院団参は杜の都仙台まで足を伸ばし、定義如来を参拝します。

宿泊予定の秋保温泉は、藩政時代には伊達家の湯治場も置かれたという、由緒ある温泉場です。

定員になり次第締め切りとさせていただきますので、どうぞお早めにお申込み下さい。(別紙案内もご参照下さい。)
※お問合わせ 梅窓院
☎〇三―三四〇四―八四四七

郡上おどり in 青山

※郡上物産展同時開催

六月二十四日(土)・

二十五日(日) 二日間

毎年大勢の踊りファンで賑わう「郡上おどり in 青山」。今年で十三回目を数え、ますます大きく踊りの輪が広がっています。どうぞお楽しみに。

編集後記



二号続けて檀家総代のさんのインタビューをさせて頂いた。行事で挨拶される姿しか知らず、ちょっと近寄り難いかな、というのが誤解だとすぐわかった。しっかりと目を見て話される迫力は変わらないが、話をわかりやすくしてくれる細かい気遣いや、丁寧な答えに予定の時間も過ぎてしまった。前々回のインタビュー さんは さんの紹介という。お二人の登場順が逆だったか? 深謝。(剛)

今冬は寒い日が続きました。築地を訪ねた朝も凍てつく寒さでしたが、露店のラーメンに助けられました。門前編集員、募集しております。(ほ)

春彼岸会では落語がございます。笑いは元気の源と言われています。笑ってお多福になれるかもしれません。どうぞお越しください。(亜)

発行/梅窓院
発行日/平成18年3月1日
発行人/中島 真成
編集住集所/青山文化村
〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話/03-3404-8447
FAX/03-3404-8107
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp
〒 浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆 猊下